

裾野市富士山防災マップ



富士山火山防災マップ 作成の目的

- 富士山火山防災対策協議会では、最新の富士山の学術調査等の科学的知見と、火山専門家等の助言も踏まえ、火山防災対策を進めるため、令和3年3月に17年ぶりの富士山ハザードマップを改定しました。
- 改訂版では、対象とする噴火年代を2,400年遡り、最新の調査結果に基づき想定火山範囲を拡大し、大規模噴火の溶岩の噴出量を約2倍に変更しました。また、大規模・中規模・小規模の3段階に分け、252通りのシミュレーションを行った結果、特に、溶岩の流下範囲が拡大し、市街地などへの溶岩流の到達時間が早くなりました。
- このように、今回のハザードマップ改定により、火山現象の及ぼす影響が大きくなりましたので、特に、「避難しなければならぬ人が安全・確実に避難するための新たな避難要領」を考える必要があり、現在、富士山火山防災対策協議会で検討され逐次具体化する予定です。

- そして、この改定を受けて、「裾野市富士山火山防災マップ」を作成しましたが、表面の「災害の発生可能性マップ」は、各種火山現象が及ぼす影響範囲を現象ごとに示した領域図です。また、裏面の「溶岩流のシミュレーション(溶岩流ドリルマップ)の重ね合わせ図」は、個々の噴火口から流出した場合に、どこまで到達するかを具体的に示した図であり、小規模・中規模・大規模の噴火規模に分けた領域図です。
- しかし、各火山現象は同時に発生するものではなく、一度の噴火で色塗られた範囲すべてに危険が生じるわけではないこと、また、この火山防災マップは過去の富士山噴火の調査やシミュレーションをもとに作成しているため、実際に噴火した場合にマップの範囲外に影響が及ぶ等、内容が異なる場合があることに注意が必要です。
- 富士山では様々な観測装置を設置し、噴火予測のための観測が行われており、現時点(令和4年3月)においては、富士山が噴火しそうな兆候はありませんが、万が一噴火しそうになったり、噴火した時に備えた防災対策は計画しておく必要があります。
- そのため、この防災マップは、想定される火山活動によって、どの範囲までどのような影響がでるかを市民の皆さんに知っていただくとともに、皆さん一人一人が生かす地域・場所の特性を踏まえて、自らの安全を確保するためにどう対処すればよいか認識し、この火山防災マップに必要事項を書き込む等、有効に活用していただく目的で作成しました。